

# ＊いわくに 市議会だより

## 第7号

2008年(平成20年)8月15日  
発行 岩国市議会

〒740-8585  
山口県岩国市今津町一丁目14番51号  
TEL (0827) 29-5190  
FAX (0827) 21-1001  
URL <http://www.iwakuni-shigikai.jp>  
E-mail [tegami@iwakuni-shigikai.jp](mailto:tegami@iwakuni-shigikai.jp)

編集:岩国市議会だより編集委員会  
印刷:フジ美術印刷株式会社



せんになづか  
▲千人塚(玖珂町)

戦国時代末期、玖珂盆地は杉隆泰が鞍掛城主として盆地内の大半を領有していました。1555年、杉隆泰は、この地に攻め込んできた毛利元就一族と戦い敗れました。千人塚はこの鞍掛合戦で戦死した武士たちの墓です。そばには宇野千代直筆の追悼碑が建てられています。

あくたがわ  
▶ 芥川文学碑(美和町)

芥川龍之介の父(新原敏三)は美和町生見の出身でした。文学碑は、龍之介縁の地として、父の菩提寺に昭和62年に建立されました。碑には龍之介が胸中に終生秘めていたとされる望郷の一文「本是山中人」が書かれています。



わがまち  
名所めぐり

岩国市内各地の  
名所旧跡を  
シリーズで紹介しします。

### 主な内容

6月定例会のあらまし	2
一般質問	3~6
常任委員会の審査報告	7
議席表	8

# 6月定例会のあゆみ

6月定例会は、6月9日から6月26日までの18日間の日程で開催されました。

諸般の報告では、岩国市立平田中学校の事務職員が起した不祥事についての報告がありました。

平成19年度岩国市一般会計予算繰越明許費の15事業における繰越の報告、人権擁護委員の推薦についての諮問、議案として平成20年度岩国市一般会計補正予算などが提出されました。

今回の補正は、再編交付金の内定に伴い、小学生を対象とする「子ども医療費助成制度」の導入による諸経費の計上を行うものです。補正額は4億6,706万3,000円の増額で、補正後の予算額は604億2,606万3,000円となります。

その他、安心して子どもを

生み育てることができ環境を整備し、子育て支援事業の振興を図るための岩国市子育て支援基金条例など17件の審議を行いました。

議会最終日には、市職員の強盗傷害事件を受け、市長・副市長の給与を減額する条例の提案が市当局から提出され、即決審議の結果、全会一致で可決しました。

なお、子ども医療費助成制度が盛り込まれた補正予算は、一部議員より、財源が再編交付金であることについて「再編交付金を活用するのは、米軍再編を容認することになる。」「制度に所得制限があるのは不公平であり、その撤廃を求める。」「などの意見が出ましたが、最終的には全会一致で可決されました。同じく子育て支援基金条例など、上程された17件全てが可決されました。

そのほか、議員提出議案が5件提出されました。『海上自衛隊岩国基地航空部隊の岩国残留を求める意見書』『岩国基地を空母艦載機離発着訓練（FCLP）の恒常的施設に指定しないよう求める意見書』『市長専決処分事項の一部改正』『療養病床の廃止・削減計画の見直しなど、安全・安心な医療を保障するための諸施策を行うことを求める意見書』の4件は全会一致で可決されましたが、『行財政改革推進調査特別委員会の設置』は、「常任委員会」で審議が可能であり、特別委員会の設置は常任委員会が形骸化する恐れがある。』との反対意見があり、賛成少数のため否決されました。

なお、一般質問は6月17日から20日まで4日間にわたり22名が行いました。

6月定例会風景



まちづくり支援

**問** 合併後、県内一の面積となり各地域のまちづくりは、住民参加が必要となる。そのために自由に使える交付金を支給する事でまちづくりを支援してはどうかか。

**答** 合併により、県下最大の行政面積を有する地域でまちづくりそのものが市の発展の機軸となる「自らの地域は自らの手で興す」という取り組みが必要となる。三重県名張市等他市においては、地域における自主的・主体的なまちづくりに対し、行政が交付金を支給し支援していることも伺っている。地域の活性化に対して、国や県の補助金を活用しながら今後支援をしていきたい。

井上 昭 治 (公明党議員団)

まちづくりに交付金支給を  
国県の補助を活用し支援する

行政改革

**問** 福田市長が誕生して以来、庁舎建設補助金の交付など、一部で明るい兆しもありますが、現状の財政は破綻を免れた程度で、住民サービスの低下と高負担の感は続いています。市民生活に密着した予算確保のために、新市建設計画並びに組織機構の見直しなど、行財政改革の推進が喫緊の課題だと考えます。また、接遇などソフト面での市民に対する意識改革など、岩国市の経営についてお聞かせ下さい。

**答** 「財政健全化計画」「集中改革プラン」に沿って引き続き行財政改革を推進し、効率的な行政運営に努めていきたい。また、市民サービス向上のため、職員の意識改革など、積極的な経営改善を進めてまいります。

阿部 秀 樹 (市政クラブ)

岩国市の経営について  
市民のために改革を進めます

再編 交付金

**問** 再編交付金の活用については、全市にわたる施策に活用することも必要とは思いますが、法的主旨からも、これまで墓地によって被害を受けてきた、特に騒音などに悩まされている地域に対して優先的に交付金を活用すべきと考えるがいかがかか。

**答** 再編交付金の運用については、安心・安全対策をはじめとして、住民福祉の向上、地域の発展に資するといった要請にこたえるために活用することとしている。事業の実施にあたっては、騒音被害を受けているなど地域の特性に配慮しつつ、緊急度、重要度及び事業効果等を総合的に勘案し、より優先順位の高い事業を選定する事としている。

石原 真 (清風クラブ)

再編交付金の活用方法は  
地域の特性に配慮し活用

岩 国 駅

**問** 岩国駅前降車場と駅構内のエレベーターを設置することについて伺います。

**答** 駅前降車場は、関係各社の利用形態が異なるため前に進まなかったが、いつまでもやらない訳にはいきません。関係事業者と協議して、今のご不便さを解消していきます。岩国駅のエレベーター設置の必要性・重要性は認識しています。バリアフリー化は財源の問題で中断していましたが、平成20年度までに中心市街地活性化新基本計画を策定し、これを踏まえて、行政側がしっかりと関係機関(JRも含めて)に向き、積極的にエレベーター設置に向けて努力していきたいと強い思いを持っています。

味村 憲 征 (憲政クラブ)

岩国駅にエレベーターを  
積極的に設置に努力する

防 災

**問** 災害が発生しそうな時、情報を知りたいという要望が多い。情報入手の一つとして、山口県土木防災情報システムがあるが、市民にこのシステムを周知しているか。

**答** 山口県土木防災情報システムは、時間雨量、蓄積雨量、1時間ごとの河川の水位、水位の増減、気象情報等をリアルタイムで配信するシステムである。平成19年度からは、菅野ダム等の貯水位、流入量、放流量も確認できるようになった。

周知については、市報や市のホームページ「岩国市の防災」で紹介し、積極的な利用を呼びかけていく。

藤井 哲 史 (清風クラブ)

土木防災情報システムの周知は  
積極的な利用を呼びかける

岩 国 基 地

**問** 福田市長は岩国基地でのNLPは「絶対反対」と宣言しているが、再編後に硫黄島以外の場所で行うNLPの終了時間は午前3時。終了後岩国基地に帰還することになる。つまりNLPはよその場所でも実施して午前3時頃何十機もの爆音が市民の安眠を打ち破る事になる。「米軍再編」で生じる、逃れることの出来ない新たな爆音被害を改めて検証すべきだ。

**答** 日米協議会で約束している飛行運用時間の厳守をこれからも強く求めていく。NLPは岩国基地で絶対実施しないよう強く要請するし、その恒常的な訓練施設の建設場所や運用については、今後あらゆる角度で情報を収集し、的確な対応をしていきたい。

田村 順 玄 (リベラル岩国)

午前3時の爆音、恒常化を懸念  
協定時間外の飛行阻止に全力を尽くす

子育て支援

避難所の耐震化急げ

重点的に耐震化を進めたい

藤本博司 (日本共産党市議員)

問 中国の四川省大地震、岩手・宮城内陸地震で大きな被害が出た。山口県では大竹断層で震度7の地震が起きれば6,296人の死傷者が出る」と発表した。

災害時に市民が避難する「避難所」の耐震化を急ぐべきではないか。

答 岩国市の180箇所の避難所のうち、計画済の学校と民間施設を除き33施設が新耐震基準以前の施設である。

災害発生時の拠点となる公共施設の耐震化は重要であり、「岩国市耐震改修促進計画」に基づき重点的に進めてまいりたい。

市長の公約「子育て支援」について

優先順位、実現可能か検討する

山田泰之 (日本共産党市議員)

問 市長選挙公約の子育て支援のうち、「子育て支援センターを学校ごとに創設する」と、「幼稚園や保育園の保護者の負担軽減」について、具体的にどのように実施するのか。

答 子育て支援センターについては「こころプランII」の中で需要調査を実施し、必要性の高いものについて実施する。保育園に関する新たな負担軽減については、財源が必要になることから、「子育て支援の施設」全体の中で優先順位や実現可能かを含め今後検討したい。また、幼稚園についても財政状況を勘案し実施計画との整合性を図りながら検討したいと考えている。

子育て支援

小学生の医療費助成

医療資源の確保に努めたい

渡吉弘 (市民クラブ)

問 再編交付金を積み立て、本年度約5、400万円、来年度以降約1億3,000万円を見込むというが、「岩国の財政は大丈夫?」「岩国の小児科医療は大丈夫?」という声が寄せられている。

就学助成金をカットし、他方では医療費を助成する大きな矛盾も抱えながら、医療資源の浪費防止や権利ばかり主張する親の啓発をどのように行っていくのか。

答 子どもが安心して医療を受けられ、経済的負担の軽減になる。今後は、母子保健推進協議会や教育関係機関と協力し、万が一病気になるなどの対応、医療機関の利用方法などの啓発に取り組み、医療資源の確保に努めたい。

インターシップ支援事業について

市が斡旋する事は困難

古谷清子 (日本共産党市議員)

問 若者の仕事確保と中小業者の後継者づくりを融合させたインターシップ支援事業がある。また、中学校や高校など授業の一環として、職業体験学習が行われている。仕事のない若者などを対象にした支援事業に取り組み考えはないのか。インターシップ希望者、受け入れ希望事業所を登録し、市の担当課が窓口となって中継ぎをする制度を検討してみたいか。

答 未就職者に対して、市内の中小規模の企業などに、職業体験学習を市が斡旋する事は困難。国、県など関係機関と連携を図りながら、情報の提供などに努めていく。

漁業政策

本市の農業振興策について

国・県及び関係団体と連携し取り組み

藤重建治 (政和会)

問 世界的規模で穀物価格が高騰する中、この異常事態をチャンスと捉え、儲かる農業、とりわけ稲作を中心とした循環型農業の推進が必要と考える。また、環境保全の観点から、錦川及び島田川の2つの流域で、上流域と下流域とが連携した地産地消の推進は考えられないか。そのためにも、市組織に農林水産部の設置と新市全域を網羅した農業振興基本計画を早急に策定していただきたい。

答 食の安全・安心の観点からも、循環型農業の振興の重要性は良く認識している。荒廃農地の発生防止及び環境保全の観点からも、ご指摘の課題に取り組んでいく。特に、農業振興基本計画は今年度を目途に策定する予定であり、農林水産部の設置については、現在進めている組織・事務分掌の見直しの中で検討していく。

漁場の整備について

種苗放流を積極的に実施

重岡邦昭 (市民クラブ)

問 漁獲量を増やすために国、県、市は漁場の整備を急ぐ必要がある。特に146号海域は、岩国基地を抱え、音による産卵の減少、沖合滑走路移設による潮流の変化、藻場の消滅等魚の住環境悪化が進んでいる。その補償として稚魚の放流、海底清掃、アマモの育成、魚礁の新設及び再利用について実施する必要があると考えられているか。

答 平成20年度にマダイ等196万1千尾の種苗放流を予定し、予算額は5,014千円である。漁業者の皆さんから放流効果はあると聞いており、継続して放流量増加の強い要望があるので、今後も種苗放流を積極的に実施していく予定である。



道路整備

車に頼らないまちづくりのまちづくり  
事故を防ぎ整備改善に努める

姫野 敦子 (清風クラブ)

**問** 環境に優しい乗り物である自転車を利用しやすくし、また歩行者が安全に通行できる道の整備を求めます。道路交通法も改正され、違反による罰則も厳しくなる中で、現状の道作りの課題も多い。自転車道の整備状況や、歩きやすい歩道の整備は。

**答** 自転車と歩行者及び自転車を分離する改良を進めているが、用地の確保等の課題があり、公安委員会等関係機関と調整を図り整備改善に努める。麻里布町地域の「安心歩行エリア」区域の市道では、車両や歩行者の通行区分帯をカラー舗装等で色分けし、視覚的に歩行者が安心・安全に通行できる道路整備を進めている。

岩国医療センター

**問** 岩国医療センターの愛宕山への移転は市民の切実な願い。医療センターを中核とする道路や下水道などのインフラ整備・公共交通網の整備等それぞれの立場で役割を着実に実行することが求められている。現状の進捗状況と課題について問う。

**答** 早急に移転用地面積を確定することや、道路などのインフラ整備の問題等解決すべき諸課題があり、国の支援を視野にいれながら検討したい。現行の開発事業が都市計画決定されたままでは、移転が困難であり、医療センター側は平成24年度に開院したいとの希望もあり、今年度中にも都市計画変更を完了したい。

越澤 二一代 (公明党議員団)

医療センター移転の課題は  
今年度中に都市計画を変更したい

道路整備

幹線道路の早期整備を  
関係機関へ強く要望する

宗正 久明 (創政会)

**問** 各地域の交流と連携による一体感の醸成と経済活動の発展を図るためには、特に地域を結ぶ道路網の整備や、情報通信網の整備を急ぐ必要がある。

新市建設計画における幹線道路のうち特に旧玖北地区の重要な路線でもあり、多くの市民の期待も寄せられている県道岩国錦線並びに徳山本郷線の早期整備・進展を図られるよう積極的な陳情、要望活動をすべきではないか。

**答** 今後の道路財源を取り巻く情勢は厳しいものがあるが、要望箇所を早期実現に向け、国、県及び関係機関へ強く要望して参る。

学校耐震化

**問** 中国・四川省大地震では学校の倒壊により児童、生徒に大きな被害が出ましたが、岩国市の学校耐震診断結果と今後の対応についてお尋ね致します。

**答** 危険度の高いAクラスの学校は麻里布小・中、川下小・中、東小・中、小瀬小、装港小・灘小、玖珂小学校の10校22棟となっております。従来計画では本年度より危険度の高い施設105棟を20年間で約100億円の事業費で実施する予定でしたが、短期間で耐震化実施が出来るように早急に見直しを行い、9月または12月議会に提案出来るようにしたいと思っております。

片山 原 司 (政和会)

小中学校耐震化推進計画について  
本年度中に計画変更内容を発表

学校耐震化

小中学校の耐震化事業について  
今後の補正予算で対応

大西 明子 (日本共産党市議団)

**問** 6月12日で四川地震から1か月が経過。小学校が倒壊し児童が生き埋めになっていることに心が痛む。日本でこうしたことがあってはならないと、耐震化を促進する改正法案が参議院本会議で全会一致で可決。耐震補強への国庫補助率を23に、改築補助率は12に引きあげ今年度から5年間で補強工事を達成する計画。福田市長も5年間で行うと公約している。検討内容を明らかにされたい。

**答** 早期に第2次診断を行い、補強計画、実施設計、工事へと着手できるよう検討している。遅くとも12月議会には補正予算で対応したい。

教育行政

学校耐震化

学校の耐震化急げ  
効果的な耐震化事業を進める

河合 伸治 (公明党議員団)

**問** 四川省大地震、岩手宮城内陸地震でも、学校施設に大きな被害が出て、尊い人命も失われた。

学校の耐震化は喫緊の課題であり、国においても、公明党の強い主張により、補助金のかさ上げ等を決定した。今後の岩国市の取組みを問う。

**答** 現施設は、児童・生徒の急増期に対応した施設であり、今後の推移も見据えながら、適正規模、適正配置を早期に検討し、関係者の皆様のご理解もいただきながら、効果的な事業を進める。

倫理道徳教育について

普及を検討している

前野 弘明 (市政クラブ)

**問** 災害被災後のメンタルヘルス、無差別殺人等のテロ行為、社会のあらゆる現場で起きている諸問題の原点に倫理道徳の欠如がある。人の能力を伸ばす、活かすにおいても、倫理が大切である。日本の資源は人材であり、日本精神が技術革新や様々な産業の発想の基である。100年以上争いのないいきいきとした文化が花咲いた江戸時代を支えたのが、日常行動規範である「江戸しぐさ」だった。態度や姿勢を正すことにより無理なく倫理観を身につけることを倫理道徳教育に取り入れてみてはどうか。

**答** 「玖珂しぐさ」ということで試みてきた例もある。これから普及するのととも考えていきたい。

教育行政

通学支援定期券の発行は  
現状では課題が多い

松本 久次 (政和会)

**問** 交通局発行のサンキューパス券での通学は1か月3,900円で通学できる。その一方、本郷町から、バス、鉄道を利用し旧岩国市内の高校へ通学すれば、1か月36,720円かかる。また、旧市内から、旧広瀬高校・旧坂上高校へ通学する保護者に対し、補助があったが、平成20年度をもって廃止となり、通学生を抱える保護者には、大変な負担となる。通学定期券の何割かを補助する制度の新設は、できないか。

**答** サンキューパス券と、他の交通機関の通学定期を同列に考えるのは困難な面がある。また、市が通学支援定期券を発行することは、現在の財政状況等から判断して課題が多いと考えている。



図書

学校保健

アレルギー疾患への取り組みは  
安全・安心となるよう取り組み

河本 千代子 (公明党議員団)

**問** 学校のアレルギー疾患に対する取り組み指針が、4月以降、全国の教育委員会や学校などに配布され、アレルギー疾患のある子どもたちを学校や園などで、どのように支えるかという視点で、取り組みを促しています。

本市における児童生徒の実態および疾患に対する取り組みについて尋ねます。

**答** 平成19年度は気管支喘息245人、アトピー性皮膚炎209人、アレルギー性結膜炎346人、食物アレルギー250人です。児童生徒・教職員及び保護者への周知・啓発に努めるとともに、アレルギー疾患をもつ児童生徒の学校生活がより一層「安全・安心」なものとなるよう取り組みを進めます。

図書購入費の予算化について

学校図書の充実是不可欠

野口 進 (市民クラブ)

**問** 先日、全国の自治体で図書購入費として措置された地方交付税が、十分に予算化されていないという報道がされました。岩国市では、どのようになっているのでしょうか。

**答** 文部科学省は「新学校図書館図書整備5か年計画」を策定し、学校図書館図書標準蔵書数達成のため、地方交付税として図書購入費を措置しています。しかし、本市では財政状況の厳しい中、交付税措置額を満額予算化することは困難な状況になっています。これからは、また学校図書館図書標準蔵書数の達成ができていない学校に予算の重点配分を行なうなど、メリハリの利いた予算配分をしていきたいと考えています。

## 6月定例会

# 常任委員会 審査報告

### 経済常任委員会

委員長 藤重 建治

今期の6月定例会では、当委員会に付託された事件はなく、委員会では、閉会中の特定事件の調査についての意見交換を行い、その後、施設園芸の産地振興及び畜産振興の観点から、由宇町のトマト栽培施設農家「由宇町施設園芸組合」と周東町食肉流通センターなどの調査視察を行いました。

由宇町施設園芸組合は、組合員9名で161アールの栽培面積でトマトを中心にキュウリ等を栽培し、新規就農の若手農業者もおられ、今後の飛躍が期待されます。また、周東町の施設では、1千頭を越す黒毛和牛の肥育が営まれており、高森牛ブランドへの取り組みを感じました。

しかし、両施設とも、原油価格や穀物等の価格高騰による経費の増大が経営

を圧迫しており、行政の支援を望む意見が強くあり、議会としても「層の農業振興の必要性を感じさせられた視察となりました。

### 教育民生常任委員会

委員長 縄田 忠雄

当委員会には、平成20年度岩国市一般会計補正予算(第1号)の他、3議案が付託され、慎重審査の結果、原案妥当と認め、可決すべきものと決しました。

一般会計補正予算の審査において、子育て支援事業に関して、こども医療費助成事業は、非常にいい制度だと思いが、再編交付金による事業であることから、所得制限を撤廃し、すべての子供を無料化にすることはできないのか、などの意見があり、当局から、この制度は今後とも継続して実施したいので、議会の意見や提言をしっかりと受けとめ検討したいが、当面はこの提案どおりで実施したいとの答弁がありました。

討論において、「再編を受け入れるか否かで、国が交付を決定するのは間違いだと思うが、このたび提案されたこども医療費助成事業については賛成」、「こども医療費助成事業は有意義なことなので、制度の啓発や改善策を充実させることを願う賛成」との意見があり、全会一致で可決すべきものと決しました。

他の3議案につきましても、全会一致で可決しました。

### 建設常任委員会

委員長 河本千代子

委員会では、岩国市営住宅条例等の一部を改正する条例、岩国市公共下水道根幹的施設の建設工事委託に関する協定の一部変更をはじめ4議案について審査の結果、可決しました。

岩国市営住宅等の一部を改正する条例の審査に関して、委員から今回の条例改正は、市営住宅における暴力団員を排除できるよう、規定の整備を行うものであるが、その一方で、空き家が多く見受けられるが何戸あるのか。空き家の中には大幅なりフォームが必要などところもあり、厳しい財政面において対応できていない現状と思われるが、どのような状況なのかなどの質疑がありました。

当局から、本年4月1日現在で2、159戸の市営住宅のうち、252戸が空き家となっている。住宅の入居者募集をかけ、応募があった所からリフォームをして入居いただき、応募がないところは先送りしている現状であるとの答弁がありました。

### 総務常任委員会

委員長 井上 昭治

委員会では、岩国市市政市民会議条例の一部改正の条例他7議案を審査し

ました。錦川清流線ダイヤ改正についての請願は、引き続き審査する事になりました。

審査の状況は、市政市民会議条例の一部改正の条例で、分野別市民会議を6から4に見直しをした理由は何かとの質疑があり、当局からは開催回数、審議件数にばらつきがあり、効率的に審議をするために見直したとの答弁がありました。

不動産の取得は、学校用地購入の際は、土地の鑑定に不動産鑑定業者が1社となつているが、2社以上の市内業者に依頼するべきではないかの質疑に、今後は必要に応じて、2社以上でしっかりと対応したいとの答弁がありました。

岩国市の区域内に新たに生じた土地の確認については、一部委員から基地沖合移設が騒音、墜落の危険防止の当初の目的に反しているから反対との意見がありました。結果、賛成多数で可決しました。



# 議席表



25	26	27
村中洋	石原真	姫野敦子

28	29	30	31
藤井哲史	山田泰之	古谷清子	大西明子

32	33	34
藤本博司	武田正之	高田和博

13	14	15	16
田村順玄	重岡邦昭	野口進	渡吉弘

17	18	19	20
縄田忠雄	前野弘明	阿部秀樹	細見正行

21	22	23	24
林雅之	味村憲征	西村幸博	桑原敏幸

1	2	3	4
河合伸治	河本千代子	越澤二代	井上昭治

5	6	7	8
片山原司	石本崇	藤重建治	松本久次

9	10	11	12
藤本泰也	貴船 斉	宗正久明	中塚一廣

## 演壇



■委員長 河本千代子  
 ■副委員長 石原真  
 ■委員 石本崇、貴船 斉、田村順玄、野口進、林雅之、前野弘明、山田泰之

新庁舎の議場で行われた初めての定例議会、ヒカピカの演壇に22名の議員が登壇した。合併後の活発な議員活動もその器に負けじと、自然に力が入る。議場に缶詰の4日間、聞くだけでも疲れる一般質問だが、仕切る議長の疲労も相当なはず。それにしても自分に与えられた質問時間60分の短いことよ、今号もその渾身のエッセンス満載の議会だよりが完成した。質問に出た豊富なテーマ、これを見出しのつもりで議事録を読むのも一考、市政の深淵にたどり着くこともできる。表紙を飾るふるさと自慢の写真も、某編集委員の力作だ。市報とは一味ちがう「議会だより」目指し、みんなで張り切って編集した。ご愛読あれ！

編集後記